

令和6年度福島市保健所運営協議会 主なご意見・ご指摘等(要旨)

感染症に対する個人防護具着脱演習の防護服は使い捨てか

(回答)

今回の訓練では使用期限の切れたものを有効活用している。

小児科休日当番医のオンライン診療について、広報はどのようにしたのか

(回答)

上記オンライン診療は期日限定の実施であることから、対象者を絞った広報とした。学校連絡用アプリの活用や保育所等施設への紙媒体配布など、保護者へ向けたプッシュ型の広報を行った。

市職員向け感染症対応動画研修の受講率の把握について

(回答)

現在配信期間中であるため途中であるが再生回数600回を確認している。リマインドをかけるなど、より多くの職員に見てもらうよう努めている。

適しおサポーターの協力施設数は

(回答)

スーパーマーケットやドラッグストアなど84団体129施設に協力いただいている。今後もいろいろな業種や組織の方にご協力いただけるよう進めていきたい。

難病患者の災害時個別支援計画に基づき訓練を実施しているが、市内の在宅で人工呼吸器を装着している方は把握しているのか

(回答)

現在、難病で人工呼吸器を装着している方は10名。難病以外の高齢者の方等に関しては別の部署で対応している。

難病対策地域協議会を東北の中核市において初めて設立したとのこと、大変素晴らしいことであるためもっと発信をしてほしい。

(回答)

市長定例記者会見等で発表し、マスコミにも取り上げていただいたが、なかなか皆様に情報として届くのは難しいことが改めて分かった。今後も広報に力を入れていきたい。

健康づくりプラン2024ダイジェスト版の作成部数と配布対象について。

また、予算の問題はあるだろうが全戸配布してもらえるとありがたい。

(回答)

3000部ほど作成し、市内の小中学校や保健所で健康教育を実施した際に市民の方へ配布している。

福島市はがん検診や特定健診の受診率が低い。委員間でも危機感を共有し、受診率向上を目指すことを共通認識とする必要がある。

(回答)

市民の方々のさらなる理解と、受診しやすい環境を整えることに、市としてしっかり取り組みたい。